



最近は食の安全性に関するニュースをよく耳にします。夏に向けてさらに食中毒には注意しなくてはならない季節ですね。暑い季節にはあっさりと食事を済ませたいところですが、特に生ものの扱いには十分気をつけてください。食中毒対策はその予防が第一です。

食物アレルギーにも効果的な予防法があればいいのですが、最近これに関して注目されている「湿疹が食物アレルギーの原因のひとつである」という説に関して書かせていただきます。

食物アレルギーの症状のひとつが湿疹である(食物アレルギーが湿疹の原因)ということをご存知の方も多と思います。

しかし、この説は原因と結果が逆になっています。

食物アレルギーは、ある食物を食べるとアレルギー症状を引き起こす病気です。特に食べてすぐ起こる「即時型アレルギー」では、体の中で主にその食べ物に対するIgE抗体(牛乳アレルギーの場合には牛乳に対するIgE抗体)が他の細胞と一緒に働いて症状がでます。このIgE抗体が体の中で作られることを「感作(かんさ)」といいます。

感作されると食物アレルギーになる可能性が高くなるので、感作しないようにするのが予防法の一つとして重要です。ではどのようにすれば感作を防ぐことができるのでしょうか。

感作するためには、体が食物と接する機会が必要です。当然食べるということもその機会の一つとなります。

最近の研究では、幼少期に食べることで感作される以外に、湿疹がある皮膚に付着することからも感作されるということが分かってきました。湿疹があると皮膚のバリアが不十分になって、そこから食物の一部が体内に侵入し感作されるというものです。もちろん食べたものや湿疹に付着したものがすべてに対してアレルギーになってしまう訳ではありませんし、どのような状況で食べたり付着するとアレルギーになるのか詳しくは分かっていません。しかし、実際に赤ちゃんの頃に湿疹があった人と湿疹がなかった人では、湿疹があった人の方が食物アレルギーになる確率が高かったという調査結果も出ています。

果たしてどれくらいの予防効果があるのかわかりませんが、少なくとも乳児湿疹は放置せずに早めに治した方がよさそうですね。

-----

## 2、東日本大震災に対する支援活動のご報告

-----

### ① 事務局での支援 — 6月災害支援活動報告 — 鶴田亜津佐

災害発生直後からアレルギー支援活動の内容は刻々と変化しており、時には涙を流しながら相談を受け、支援物資を調整し、宅配ルートを確立してきま

した。今回は名古屋事務局からこの3ヶ月間の支援方法の移り変わりとな  
り新たな取り組みを報告したいと思います。

これまで私たちは二つの供給ルートを組みました。ひとつは、物資拠点  
として被災地の患者会、市役所の保健福祉課や避難所、ボランティアセン  
ターにアレルギー対応食べ物や物資を配置する方法で、もうひとつは直接患者  
からの連絡を受けてボランティアの手や宅配で直接届ける方法です。また、  
今月から新たに保育園や給食センターなども対象に大口の支援や参考資料の  
配布も開始しました。

まず、一つ目の物資拠点での方法は6月に入り徐々に縮小しています。それ  
は被災地では仮設住宅への入居が進むに伴い避難所などの緊急支援ボラン  
ティアセンターが活動を終了しているからです。今後の生活支援については物  
資を常備するのではなく、物資が必要な方現地支援団体を介し個別支援を行  
っていきます。

次に、二つ目のルートである個別支援活動は件数の変動が激しいです。理由  
はメディアによる支援活動の情報発信です。これが効果的な時期になり、ま  
た放送のタイミング次第で支援要請が一気に増えるからです。その一例が5  
月24日の宮城TVの特集で、放送後数日間は今までにない数の個別支援依頼  
が入りました(数日間で13件)。それ以外ではある程度生活環境が平常化し  
つつある被災地からの支援要請の件数は減少傾向ではあります。

ですので、5月以降の具体的な支援については、仮設住宅のテレビでアレル  
ギー支援があることを知った方や今まで集団生活で支援依頼を自粛していた  
方々からの支援要請が大半でした。同時に今も孤立した地区の避難所で初め  
て私たちの支援活動を知り、この3ヶ月間、白米と限られたおかずのみで避  
難生活を送っていた方もいらっしゃいました。もっと早く私たちの支援活動  
について知ってもらえていたら・・・と悔やむばかりです。

また、宮城県や岩手県からの個別支援は減少しつつも、福島県は原発問題で  
先が見えずに、二次、三次避難などを行っている方もおり、その都度生活環  
境に応じた支援が必要になってきます。名古屋事務所では個別支援活動の継  
続はもちろん、6月から新たな取り組みとして今まで支援した方に現状確認を  
し、必要であれば追加支援にも対応しています。今のところは、ほとんどの  
方が現在は追加支援不要で元気に生活をされているので一安心しているところ  
です。

(余談ではありますが、4月上旬にマスメディアを通じ支援活動窓口につい  
て大々的に告知した「アレルギー110番」の際には数件の問い合わせのみ  
だった理由が、やはりその時点ではまだメディアからの情報が受け取れる状  
況でなかったのだとはっきりしました。また、震災から3カ月経った今、メ  
ディアが効果的な手段になったということは、どれだけ今回の震災が大規模  
なものなのかを証明しています。)

そして、支援活動の中で今回改めて実感したのが、支援活動情報の発信とア  
レルギー患者の所在の把握の難しさです。この課題を克服するために、新た  
な取り組みとして「防災セット」を本メルマガで案内していますので、是非  
ご覧ください。

最後に、個別支援とは別の新たな3つ目の支援体制として今月からは給食センターや保育園などを対象とした大口の支援も開始しました。必要な支援物資とともに、アレルギーを正しく理解してもらうための資料の支援を岩手県内の保育園など約15か所に行いました。

今後も名古屋事務所では現地支援活動の後方業務と個別支援活動を行っていきます。今後とも皆様のご支援、よろしくお願いいたします。

## ② 被災地イベント活動 事務局長 中西里映子

2011年6月5日(日)イオンモール名取エアリ(宮城県名取市)にて開催された復興イベントのお手伝いをさせていただきました。ここでは開店前の駐車場を利用して、毎週、日曜日に朝市を開催していますが、その一角で熱気球の試乗会と、アレルギー対応のカレーうどんの試食会を行いました。

「熱気球に乗ってみよう!」には、朝6時から8時までの2時間で、150名の方に熱気球の体験搭乗をしてもらうことが出来ました。お天気はうす曇りでしたが、熱気球は雨や風があると中止でしたので、開催できてよかったです。

ところで、なぜアレルギー支援ネットワークが熱気球かと言うと・・・実は支援ネットはアレルギー対応食の試食会を開催し、多くの方にアレルギーについて知ってもらい、被災地での正しい配慮と理解をしてもらうための企画をしていたところでした。そこに、以前被災地ボランティアで参加してくれたMさんが熱気球のパイロットだということと、名取市からのイベント参加オファーがありちょうどマッチングしたのです!

そして、名取での開催という事もあり、周辺にお住まいの患者さんをイベントにお誘いし、多賀城市からSさん、仙台市からKさん、Mさん、岩沼市からSさんのご家族がお子さんと一緒に、それぞれお友達家族も誘って参加してくれました。発災直後は私どもにSOSが届いても、思うように連絡がとれなかったり、すぐに食料などをお届けすることができなったり・・・、お電話で何度もやりとりを重ねた患者さんたちに直接お会いすることができて、感無量でした!! 患者さん達もとても喜んでくれました。

さて、「カレーうどんの試食会」では、「永谷園のアンパンマンカレー」と「飛騨のまさいさんからの米麺」をご支援いただき、人参・玉ねぎ・しいたけ・ピーマン・豚肉が入った具沢山カレーうどんを作りました。

この献立は、食物アレルギーの方はもちろん、どなたでも安心して美味しく食べていただけるように、また、被災地の屋外イベントでも美味しく出来るようにと、名古屋の保育園で長年アレルギー対応給食の調理を担当していたスタッフが、1カ月前から研究をしたものです。当日は、栃木から管理栄養士Iさんがボランティアでお手伝いをしてくださり、美味しいカレーうどんができました。

熱気球試乗会に参加してくれた患者さんも含め、約300の方に、食物アレルギーのことを説明しながら試食をしていただくことができました。

③ 現地支援活動 東北事務局スタッフ 宮田浩樹

大船渡の教育会館を基地にしている、アレルギー支援ネットワーク 東北事務局の宮田です。

支援物資を車に積んで、今日は陸前高田市、また次の日は釜石市経由で山田町と、日々走り回っています。

ある日の行動を書いてみると…

7:30 起床

8:30 必要な物資の積み込み

9:00 大船渡出発

10:45 山田町到着、戸別訪問開始

いままでの支援リストを元に、一軒ずつ電話をかけてから戸別訪問して、その後の状況などを聞いて、必要な物があればお渡ししています。

住所が無い人、既に避難所を出ているため行方が判らない人、携帯圏外の地域などがあって、一日に訪ねることができるのは5軒ぐらいです。

13:00 コンビニでお昼ごはん

15:30 訪問終了、大船渡へ向けて出発

17:00 大船渡到着

18:00 20km離れたお風呂へ

20:00 教育会館に戻って、夜ごはん

21:00 ビール片手に、報告書作成と明日の計画など

0:00 消灯

一日の走行距離は、平均 150km ぐらいです。

多い日は 300km ぐらい走っています。

「震つな」から借りているベンツがすごく役に立っています。

荷物が積みやすいように、後ろに棚を作ったりして使いやすくアレンジもしました。

運転中の気分転換にはカーステレオで CD 聴いていますよ。

- ・元気に要支援者を訪ねること。
- ・きちんとお話を聞くこと。
- ・(^-^)/ 笑顔で帰ってくることに。

毎日それを意識しています。

---

### 3、アレルギーっ子のおいしいレシピ

「豆腐サラダ」

青木 好子先生

---

暑い夏には食欲が落ちてきますね。そのような時は酢を使った一品があると

うれしいですね。酢は胃を活発にし、食欲がでてきます。豆腐を使いたんぱく質も摂取できます。夏野菜を加え美味しくいただきますよう。

レシピはこちらから

---

#### 4、「肌に優しいシャンプーの選び方」第三回

有限会社 あんだんて 有田浩三さん

---

6月号では界面活性剤の基礎知識について書きました。

8月号では「界面活性剤の変遷」について書く予定ですが、その前にシャンプー全体の流れを知っていただくために「シャンプーをとりまく環境の変化」について触れます。

##### 【使用の頻度】

昔は週に1回石けんで洗うくらいでしたが、今では毎日洗うようになっていきます。化粧品技術者会のセミナー“やさしく洗浄する技術”でシャンプーの使用頻度のデータが示されました。グラフのコピーは貰えませんでした。記憶では1950年には週1回であったものが、10年毎に直線的に増えて2000年で週7回、2010年ではやや減少して週7回弱でした。これほど使用頻度が変わると髪・頭皮などへの負担も増え、それに見合った性能が要求されます。

##### 【きれい好き】

生活習慣の変化で“洗い過ぎ”にならないように注意しましょう。

特にアトピーの方は“洗い過ぎ”“こすり過ぎ”にならないようにしましょう。“きれい好き”の弊害は、アトピーにおける都市衛生仮説とも相通じるところがあります。また、もともときれい好きなところにTVなどで殺菌の必要性が強調されるので、防腐・殺菌が重要視される傾向にあります。このことも頭皮・肌などへの負担になっています。この対策として防腐剤だけに頼らず、使用中に菌が入らない構造のポンプつき容器で防腐性能を高める例もあります。防腐は開封前よりも使用中の方が難しいので理にかなった方法ですが、入手しにくいので使用しているのは弊社を含めごく一部のメーカーです。

##### 【技術の進歩】

上記のように環境は変化していますが、それに見合った素材も開発され配合処方も進歩しています。過去にはクレンジングに使用されたミネラルオイル（流動パラフィンのことで鉱物油とも総称されシャンプーにも一部使用される）で肌が黒くなるトラブル（油焼け）がありました。これは不純物原因でしたが、精製度が向上した今日では完全に解決しています。酸化されにくく、かえって安全性の高いものとして今は扱われています。他の素材でも同じような例は多数あります。

##### 【商品の開発】

素材・処方の進歩により商品の低刺激性、使用感が向上していますので選択肢も増え選ぶ楽しさも出てきました。シャンプーの主剤（機能的に最も重要な成分）である界面活性剤については次回「界面活性剤の変遷」で詳

しく書きます。

#### 【石けん愛好】

自分好みのシャンプーがあることはよいことですが、こだわりすぎると選択肢を狭めてしまうおそれもあります。

#### 【情報の開示】

2001年の法改正で全成分表示が義務付けられました。せっかく開示されているので活用しましょう。ご自分で理解できるのが理想ですが、無理な場合はわかる方に見ていただきましょう。調べるなら「中央書院：化粧品成分用語事典2008 化粧品技術者会名誉会員 鈴木一成監修」がお勧めです。高機能化粧品素材メーカーが資料提供をしているのでアミノ酸系、低刺激性、天然系素材についてはよく網羅されています。「肌に優しいシャンプー」にご興味をお持ち方には最適です。同じ内容のものがインターネットでは「化粧品成分用語辞典」として載っていますが、出版社の公式サイトではないのでいつまで見ることができるとは不明です。

<http://www.keshou.nouko.net/2010/06/>

#### 【ITの普及】

インターネットの普及により数多くの商品を知ることができるので選択の幅は広がりました。また、全成分表示がなされている例が多いので判断しやすくなりました。この点はよいのですが、情報全般についてみるとまだまだ玉石混交で見極めが大事です。

今回の連載が少しでもお役に立てれば幸いです。

---

### 5、東海地域のアレルギーの会のご紹介－天白の会

---

はじめまして。

私達はアレルギー支援ネットワークさんのご支援の下、立ち上がったばかりの天白アレルギーの会です。

私自身、息子にアレルギーがあるとわかるまで、アレルギーについて全く知識がありませんでした。

生後三カ月で食物アレルギーとアトピー性皮膚炎があることがわかり、アレルギーについて勉強し除去食を作る日々がはじまりました。三歳になった現在も卵・乳製品・大豆・小麦・ごま・サバなどを除去しています。

食物アレルギーがあり、除去している話をすると「大変だね。毎日何を食べているの?」と言われるのですが、代替品やアレルギー用の食品を探して毎日頑張っています。

同じ悩みをもつお母さんや子供達とおしゃべりしながら情報交換したり、勉強したり、愚痴や悩みを言い合ったりしていければ良いなと思っています。

今後一カ月に一回交流会を開催していく予定です

一緒に楽しく過ごしましょう。

次回は 23 年 7 月 14 日（木）10 時～12 時

天白区在宅サービスセンター ボランティア室

(天白区原1丁目301 原ターミナルビル3階)で開催します。

アレルギーで悩んでいる方、ご興味、ご関心をお持ちの方はぜひアレルギー支援ネットワーク事務局にお問い合わせ、およびご参加のお申込みを下さい。お待ちしております。

-----  
6、第6期アレルギー大学 中級のご案内

丹羽つきえ

-----  
5月末、浜松をかわきりに開講したアレルギー大学も4県で基礎講座を終えました。受講生の皆様、どのような感想をお持ちでしょうか。皆様のご感想もメルマガでご紹介させていただきたいと思っております。どうぞ、ご忌憚のないご意見をお寄せください。

さて、8月からは静岡、愛知で中級がスタートします。医学、栄養学、発達とますます踏み込んだ内容となり、特に専門職の皆様には現場でのアレルギー対応、集団給食のすすめ方など、どれも即戦力となる講座となっております。どうぞご期待ください。

なお、まだお席に余裕はございますが、実習などは定員数が少ないためお早めにお申込みください。

また、中級の修了には、特別講座「アレルギー表示と医学」が必須となります。お間違えのないよう確認をお願い致します。

皆様の講座お申込をおまちしております。

-----  
7、アレルギー大学講師からのメッセージ 川田康介先生(浜松会場)

-----  
「アレルギーとチーム医療」

かわだ小児科アレルギークリニック 川田康介先生

浜松市で小児科・アレルギー科医院を開業しております。

アレルギーの患者さんを診ていく場合、「はい、ぜんそくなので薬を出しておきます。」「それでは、湿疹にこの薬を塗って下さい。」のような簡単な対応ではおさまりません。病気そのものの説明や、薬の使い方、生活上の注意点など多くの内容を伝えなければならないはずなのです。

しかし、一般的には開業医では医師が一人しかいないため時間的な制約があり、患者さんへの有効な指導・教育が難しい状況にあります。このような現状では患者さんへの教育の担い手として看護師や薬剤師などのコメディカルの協力が非常に重要となります。時には、自己管理に既に精通した患者さんの協力も有用であり、まさにチーム医療と言えます。チーム医療などとかっこいい用語を用いましたが、多忙な外来診療において医師一人だけでは全てのやらなければならないことをこなすきれないので、周囲のスタッフの助けを借りているという本音もあります。

そんなわけで当院の看護師は日常の業務以外の余分な負担(?)を強いられ



てはおりますが、症状が改善する子どもたちをみてやりがいを感じてくれているものと信じております。

---

## 8、「主婦大生ミラクル☆リカのアレルギーっ子育児奮闘記」

管理栄養士 寺倉里架

---

中学3年生の食物アレルギー児のママであり、2009年の4月から大学院に通う主婦大生？こと寺倉 里架と申します。

現在、娘は卵（卵黄の固ゆでは少量食べられるようになりました）、乳のアレルギーがありますが日々笑顔もモットーに過ごしております。

本日のテーマは

「食物アレルギーの家庭は、子供が良く育つ環境にありますよね」

先日、私の大好きな名古屋短期大学保育科の小川雄二教授の講演を聞く機会がありました。

といいましても、今回が初めてのことでありませんが、いつも新しいヒントを頂き、食育の大切さを再認識。そこで、今回もいつものように最後に先生から一言。

「食物アレルギーの家庭は、子供が良く育つ環境にありますよね。」と。

この言葉は、食物アレルギー児の母親にとって、何度聞いても、大変救われる言葉です。

私たちママは、食物アレルギーということで、非常に「食」に関してある意味規制されています。そのため、「食生活」における不安も抱えています。そんな中、先生はいつも、アレルギー児は一人で食事をするということもなかなかありません。

「食物アレルギーであるが故に、「食」とのかかわりは深く、そして、アレルギーの子供は親の生活をよく見ていて、自分を大切にしてくれている親が大好きに。」とお話して下さいます。

なんとも嬉しいお話です。

そしてこの日、ご一緒した食物アレルギー児ママと

「まあ、悩みはいろいろあるけど、食への想いは食物アレルギー児ではないママに比べたら各段の差だよ。子どもはわかってきているんだね」と納得しあい、思わずスキップしてしまうそんな気分で会場をでた私でした。

みなさ～～ん、自信もって、育児を楽しもうではありませんか♪

ちなみに私のキーワードは「育児」は「育自」です。

さて、今日（記事投稿：本日は水曜日）の夕飯は（水曜日の我が家は家庭の

日で家族そろっての唯一の食事の日)、「京都三昧！」飯。というのも、主人が京都で、卵と乳製品が入っていないお土産ということで、生麩と漬物をたくさん買って来たのです。

ということで、今晚は漬物には炊きたてのご飯とのリクエストがありお鍋で炊いたご飯、漬物、生麩、京都のおばんざいを意識して煮物、お浸しを作って、京都産のお豆腐を見つけ、食卓は「京都三昧」に。すると娘が「食器はこれがいいね。お父さんは、今日は日本酒なの？」と言い出し更に京都気分。

でも、でも最後にお茶を出した時「これが宇治茶だったらなあ～完璧だったよね～」と言われ・・・(涙)

(ちなみに前は知人から沖縄のお土産を頂き沖縄 day で BGM は娘と主人がインターネットから沖縄民謡を検索していました)

食べられない食材はまだありませんが、食べられる食材で多めに楽しむ我が家でした。

#### 参考本

◆小川雄二教授のお話をお聞きしたい！◆という方へ

先生が「五感イキイキ！心と体を育てる食育」(新日本出版)を2月に出版されました。

先生の考え、想いがギュッとつまった本です。

楽しく食べる子どもを育てる上での参考にどうぞ。

---

#### 9、賛助会員からのメッセージ

中北薬品株式会社

---

皆様、はじめまして。

早速ですが、皆様はテレビで「これではなくっ茶 活命茶(かつめいちゃ)♪」という音楽が流れるCMを見られたことはありますでしょうか？

また、街で「中北薬品」と書かれてある緑色の車が走っているのを見かけられたことはありますでしょうか？

どちらも弊社中北薬品株式会社のトレードマークです。

中北薬品は本社を名古屋市中区に置き、中部圏を中心に医薬品卸売販売業を主業態とするとともに、殺菌消毒剤等を製造販売する医薬品メーカーです。おかげさまで、今年で創立285周年を迎えさせていただきました。

さて、この度弊社では新たな挑戦として、4月に「葉潤(ようじゅん)モイスチャークリーム」という、保湿を目的とした化粧品を新発売しました。このクリームは、お茶の研究・育種を行っている(独)農業・食品産業技術総合研究機構 野菜茶業研究所との共同研究によって生まれた製品です。鹿児島県産のお茶の葉「べにふうき」から抽出した緑茶エキス(保湿成分)を配合したことが特徴で、ホホバ種子油、スクワランとともに肌にうるおいを与え、乾燥を防ぎます。読んで字のごとく、「葉っぱで潤いを」というイメージから「葉潤」と名づけました。

今年の3月に開催されたアレルギーっ子フェアでは初めて企業展示ブースに

出展し、「葉潤」を紹介させていただきました。来場された多くの方々に「葉潤モイスタークリーム」のしっとりしたうるおいを実感していただけたと自負しています。「葉潤」が肌の乾燥でお悩みのあなたの心強い味方に成長することを願っております。

今後とも、中北薬品ともども、葉潤をよろしくお願い致します。

詳細は下記 URL より。今すぐブックマーク！！

なかきたオンラインショップ

<http://online.nakakita.co.jp/>

中北薬品 HP

<http://www.nakakita.co.jp/>

---

## 10、新たな防災活動の取り組み「アレルギーっ子の防災セット」のお知らせ

---

アレルギー支援ネットワークは阪神淡路大震災や新潟中越沖地震、そして現在も支援活動中の東日本大震災を通じ直面した課題克服と今後の災害発生に向けて、新たに「アレルギーっ子の防災セット」の普及活動を行っていくことを決定しました。

実は私どもが直面した災害支援活動で最大の問題とは、“アレルギー対応物資がアレルギー患者に届かない”ことなのです。アレルギー患者はそれぞれのアレルゲンを配慮したきめこまやかな対応が必要になりますが、避難所などは大衆向けの不特定多数を想定した支援物資が主になり、その上パニック状態の緊急時には少人数に対応する余裕も配慮も欠如してしまうのが実態です。

今までもアレルギー支援ネットワークは防災活動として、緊急時に保護者不在でもアレルギーについて周囲の人に知ってもらう「緊急連絡カード」、患者の安否確認と救援受付窓口の「安否確認システム」の普及を積極的に取り組んできましたが、今後は緊急事態により迅速かつ的確にアレルギー支援活動を行うため、「登録シリコンバンド」を作成いたしました。そして、これら3点を合わせ「アレルギーっ子の防災セット」として新たな取り組みを普及していきます。

この新たな「登録シリコンバンド」には安否確認システムに登録することで番号が発行され、バンドにこの登録番号印字がされています。緊急時にこのシリコンバンドを身に付けていることで安否確認の際に事前にアレルゲンや症状などを確認し、必要な支援物資をお渡しすることが出来るのです。

また、避難所などでは患者が個別に要望を上げてもなかなか通らなかったり、一人だけだと要望自体が言えなかったりしているもの現実ですが、実は同じ避難所や地区にアレルギー患者がいて共に要望を挙げることで解決される問題もあります。また、安否確認登録とシリコンバンドで相互扶助への橋渡し

も可能になります。

この「安否確認システム」・「登録シリコンバンド」・「緊急連絡カード」の3点が一緒になった画期的な「アレルギーっ子の防災セット」は、公益事業として助成金で費用を補っているため、先着1万名の方に無償サービス提供が可能になりました。

お申込みはアレルギー支援ネットワークのHPから「安否確認システム」に登録することで、1患者につき「登録番号入りシリコンバンド1本」と「緊急連絡カード3枚」が7月中旬以降、後日郵送されます。登録対象者は、アレルギー患者本人または保護者の方で、アレルギー支援ネットワークや各患者会などの会員以外の方もOKで、一切費用はかかりません。

また、すでに既存の安否確認システムに登録済みの方には必要の確認し順次、登録番号を発行しシリコンバンドを送付いたします。これを機会に、ご自身の防災対策を見直してはいかがでしょうか？

---

#### 11、7月度「アレルギー児の親の交流会」開催のお知らせ

---

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、ぜん息など、アレルギーを持っているお子さんの事、アレルギーかな？と、お悩みのある方、私たちと一緒にお話をしませんか？

アレルギー児の親交流会が9ヶ所になりました。

どこの交流会へも参加可能です。

交流会を実施している区外、或いは近郊の市町にお住まいの方の参加やお問合せも多く、名東区など、ご要望の多い地域での会の設立準備も始めております。

是非、ご参加下さい。お待ちしております。

7月は、

6日(木) 西尾アレルギーの会 アレっ子元気 総合福祉センター 4階  
和室 洗心庵

7日(木) 守山アレルギーの会 守山区社会福祉協議会 研修室

9日(土) 刈谷アレルギー児の親の会 刈谷市民ボランティア支援センター

12日(火) 名古屋南部アレルギーの会 南区社会福祉協議会 5F 調理室

14日(木) 天白アレルギーの会 天白区社会福祉協議会

15日(金) アレルギー支援ネットワーク アレルギー支援ネットワーク 事務所

21日(木) 豊橋アレルギーの会 未定 詳細はお問合せ

下さい。

28日(木) 緑アレルギーの会  
室

緑区保健所 健康増進

日進アレルギーの会は、休みです。

【対象】0歳～中学生位までのアレルギー児の保護者

【参加費用】各交流会に確認して下さい。

お申込は電話 052-485-5208 URL<http://www.alle-net.com/>

皆様のご参加をお待ちしております。

---

## 12、乳酸菌粉末食品臨床試験、ご協力者募集

---

現在、アレルギー支援ネットワークでは、市販されている乳酸菌粉末食品が  
お子様のアトピー性皮膚炎にもたらす効果を検討する、臨床試験の参加者を  
募集しています。

乳酸菌にはおなかの調子を整える働きがありますが、最近の研究でアトピー  
性皮膚炎や花粉症の予防や治療にも補足的な効果がある事が報告されていま  
す。募集詳細はチラシをご覧ください。

興味を持たれた方・応募についてのお問い合わせは

認定 NPO アレルギー支援ネットワーク 事務局長 中西里映子

TEL: 052-485-5208 Email: [info@alle-net.co.jp](mailto:info@alle-net.co.jp)

までお願いします。

---

## 13、事務局の窓辺 ～新メンバーの自己紹介～

---

改めまして皆さま、こんにちは。

メールマガジンを担当しています榊原理恵です。

5月にアレルギー支援ネットワークに仲間入りをしました。現在は仕事を覚  
える事に日々格闘しています。

さて、私の自己紹介ですが、私は管理栄養士をはじめ、健康運動指導士・心  
理カウンセラー・訪問介護員などの資格を持っています。今までは特定保健  
指導(メタボ指導)で対象者の方々に食事や運動の指導や支援をおこなった  
り、企業で栄養に関する情報発信を中心に食育授業や企画運営、栄養相談会、  
メニューレシピ冊子作成など様々な事を行ってまいりました。

アレルギー支援ネットワークで、これまでの経験を生かしながら少しでも皆さ  
まのお力になれるよう頑張っています。

今後、様々な場面で皆さまとお話したり、お会いすることがあると思います  
のでどうぞよろしく申し上げます。またその日を楽しみにしております。

---

14、メールマガジン会員募集中！無料です。

-----  
アレルギー最新情報や地域の会の情報など、「アレルギー」に関する情報満載の「アレルギー支援ネットワーク・メールマガジン」。ただいまご購読会員募集中。ご購読は無料です。みなさんの周りの方にも、ぜひご登録をおすすめください。また「こんなことを取り上げてほしい」「知りたい情報がある」などメールマガジンで取り上げる記事についてのご要望もお待ちしています。あなたの声で、アレルギー対策が一步前進するかもしれません！  
[info@alle-net.com](mailto:info@alle-net.com)までお気軽にどうぞ。

-----  
15、クリック募金にご協力ください

-----  
アレルギー支援ネットワーク「募金箱」へのご協力をありがとうございます。募金箱とは皆様がインターネット上から簡単に募金ができるサイトです。ご協賛スポンサー様のバナーをクリックしたり、ご協賛スポンサーサイト様でお買い物をしていただくだけで私達の活動を支援するための募金、寄付ができる仕組みです。ひきつづき皆様のご協力のご支援、ご協力の程何卒よろしくお願い申し上げます。下記サイトからお願いします。

<http://alle-net.bokinbako.org/0002/?pg=1>

※認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワークは寄付金控除対象団体です※  
「giveone」

<http://www.giveone.net/cp/PG/CtrlPage.aspx?ctr=pm&pmk=10108>

「東海ろうきん NPO 寄付システム」

<http://tokai.rokin.or.jp/npo/index.html> を通じてでも寄付をお願いしております。寄付の方法や支援していただく事業などは、各リンク先をご確認ください。また直接の寄付および領収書発行等につきましては、下記事務所までお問い合わせください。

=====

★メールアドレスの変更や、このメールマガジンに関するお問合せは [asn-mailmagazine@alle-net.com](mailto:asn-mailmagazine@alle-net.com) (メルマガ編集部)までお願いします。また、今後、アレルギー支援ネットワークのメールマガジンを希望されない方は、お手数ですが、件名に「配信停止希望」と書いてメールをお送りください。(メールマガジン配信準備の都合上、配信停止手続きと行き違いでお届けする場合がございますが、ご了承ください。)

★メルマガの転載について

無断転載・転送を禁じます。アレルギーの会などが活動で使用する場合は、メルマガ編集部 [asn-mailmagazine@alle-net.com](mailto:asn-mailmagazine@alle-net.com) までお尋ねください。なおメールマガジンのメールアドレスには、返信はできません。ご注意ください。

☆☆みなさまからのご質問を募集中！アレルギーや支援ネットワークに関することなんでも OK です。ぜひお気軽にどうぞ☆☆☆

-----  
★みなさまからのご要望、お便り、アレルギーについての疑問などお寄せください。

発行/編集 認定 NPO 法人アレルギー支援ネットワーク

◇事務局◇

453-0021 愛知県名古屋市中村区松原町 1-24 COMBi 本陣 S103

▽TEL : 052-485-5208

▽E-mail : [info@alle-net.com](mailto:info@alle-net.com)

☆ ◆ ----- ◆ ☆